

腹部大動脈ステントグラフト内挿術の遠隔期成績に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年 5月17日 ～ 2024年 12月31日

〔研究課題〕

腹部大動脈ステントグラフト内挿術の遠隔期成績

〔研究目的〕

当院で行った腹部大動脈ステントグラフト内挿術の全症例の術後成績を検討して、大動脈瘤径拡大や再治療を含めた術後問題点、その原因を明らかにすることで、治療成績の向上を目的とします。

〔研究意義〕

2011年1月から当院で始まった腹部大動脈瘤に対する腹部大動脈ステントグラフト内挿術は、従来の開腹を伴う腹部大動脈人工血管置換術と比較して低侵襲で、患者様に対する負担も小さいが、遠隔期における再治療率は高いと報告されています。当院の腹部大動脈ステントグラフト内挿術後の遠隔成績を検討し、大動脈瘤径拡大や再治療の原因を明らかにすることで、予め対策を行い、再治療率を改善させることは患者様に恩恵を得るものと考えています。

〔対象・研究方法〕

対象：2011年1月から2022年1月に腹部大動脈瘤ならびに腸骨動脈瘤に対して腹部大動脈ステントグラフト内挿術を施行した患者様全員を対象とします。

方法：日本ステントグラフト実施基準管理委員会推奨の術後評価方法に従い、術後評価を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部心臓血管外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

資料は加工を行い、資料はパスワードでロックされたPCに保存し、実施責任者もしくはデータ管理責任者(堀貴行)のみのアクセス可能とします。データ解析後は外部への漏出が無いように当医局の外付けHDへ保存します。研究期間終了後、研究に用いた資料は、研究終了後に事務局に提出され、以後10年間帝京大学臨床研究センターに保管の後、すべて破棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 堀 貴行(講師)

研究分担者：氏名 植原裕雄(助手)、内山雅照(講師)、今水流智浩(教授)、下川智樹(主任教授)

所属： 帝京大学医学部心臓血管外科学講座

住所： TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 7739]